

大阪 柴谷武之祐

かやつりぐさは草村のまま枯れてゐる此處の
日なたに今日二度来たり

枯草のうへに枯草のかけ置きて地つちにとどける
ひかりは澄めり

風音はきこえずなりし晝空のふかぶかとして
一つ通る雲

寒き夜の臥處に入りてしばらくはヘルマン・
ヘッセの「孤独」を思ふ

ワラーの詩句も美しかりしかど死の切実を
遊離したるもの

空あひを雲とち雪の子ラ子ラ降るかかる写象
も忘れがたしも

雲
雪

大阪府泉北郡福泉町
柴谷武之祐
柴谷武之祐

00003